２０１４年３月１日発行　　1947年10月27日　第３種郵便物認可

KOBE YMCA NEWS

神戸青年　No.628

2014．3　March

発行所　日本ＹＭＣＡ同盟　東京都新宿区本塩町７
ＴＨＥ ＹＭＣＡ神戸版　発行人／水野　雄二　編集人／櫻井　英治
神戸ＹＭＣＡ　〒650-0001　神戸市中央区加納町2-7-15
ＴＥＬ．078－241－7201　ＦＡＸ．078－241－7479
ＵＲＬ　http://www.kobeymca.org　印刷／わかばやし印刷

神戸ＹＭＣＡ 年間聖句	喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。 （ローマの信徒への手紙12:15）

ＹＹフォーラム開催

1月11日（土）に、ＹＹフォーラム「さあ！　飲んで、しゃべろう！　～わたしのＳＮＳ♪　あなたは？～」が開催されました。ワイズメンズクラブ六甲部と神戸ＹＭＣＡが主催で、神戸ＹＭＣＡユース委員会とユースリーダーが加わり、共に企画、準備を進めてまいりました。

当日はワイズメンズクラブ、ユースリーダー、職員の方々が90名以上ご参加いただき大いに賑わいました。

開会礼拝では、神戸東部教会の古澤啓太牧師よりメッセージをいただきました。礼拝後は各グループに分かれてコーヒーを飲みながらグループワークに移りました。グループワークでは、ワールドカフェ形式でいろんな世代の方々と一緒にリラックスした雰囲気の中で、普段みなさんから聞けない話や思いなどを聞くことができました。また、各グループで「わたしのＳＮＳ」を考える時も、たくさんのアイディアが出てきて各教室から笑い声がたえませんでした。

閉会式では、グループで一番よかった「わたしのＳＮＳ」を発表しました。「Ｓ：さわやかに　Ｎ：仲間あつまり　Ｓ：支え合う」などとＳＮＳの頭文字をとってＹＭＣＡを感じるユニークなフレーズが次々と出てきて会場が盛り上がりました。ネット上での人との繋がりではなく、アナログ式でＹＭＣＡに携わる人とのつながりを感じられる貴重な機会となりました。また、東日本大震災復興支援チームリーダー会の活動報告と今後の支援について、タイワークキャンプ30周年記念の報告、各ワイズメンズクラブのご紹介、クラブ幹事会からの報告、憲法を考える会についてのアピールなどユースリーダー、ワイズメンズクラブのことを知る機会となりました。

最後にこのイベントの企画運営にあたり、ご支援いただきました多くの方々に心より感謝申し上げます。

ファミリーウエルネスセンターが目指すもの

2014年で128年目を迎える私たちですが、いつも地域の人々と歩みをともにしてきました。その歩みの一つとして、これから『ファミリーウエルネス』にトライします。ファミリーウエルネスにトライするあたり、日本の家族の在り方を振り返ってみます。かつての日本の家族は、農耕社会に適した大家族を形成し、代々田畑を守り生活してきました。その後、高度経済成長と共に、会社勤め中心の生活へと移行し、核家族での生活を基本とするようになりました。さらに現代では、高齢者のひとり暮らし、女性の社会進出、遠隔地や海外で働く父親、学ぶ子どもたちなど、より細分化された家族の在り方が広がりつつあります。今、家庭を取り巻く環境は、物事がたいへん機能的になり、システマティックです。もの凄いスピードで進化し、実態は見えないが見えているような社会の中で生きています。様々なところで、細分化が進んでいます。だからこそ、赤ちゃんも、子どもたちも、お父さんも、お母さんも、おじいちゃんも、おばあちゃんも、世代、国籍を超えたすべての人たちが集い、交わり、ともに生きる心と身体を養う場を持って欲しいと願っています。私たちが、ひとり一人が誰かのことを覚え、考えていくこと、ウエルネスな営みを育める場を作ることが求められているのではないでしょうか。今、私たちが掲げる『ファミリーウエルネス』という言葉には、ひとり一人の家族の成長、コミュニティの仲間が、お互いの愛情により、お互いが支えあい、情緒的な安定をもたらしあう、新しい人と人との関係づくりを進めたいと考えています。

『The YMCA Family』の名のもとに、神様から与えられた恵みにあずかり、ひとり一人のよろこびが家族のよろこびとなり、家族のよろこびが地域のよろこびに、そして世界のよろこびへとつながっていくことを願っています。

第32回午餐会開催

「ＹＭＣＡ、世界最大の青少年団体の挑戦」～地球市民育成と平和文化～

２月１日（土）日本ＹＭＣＡ同盟の島田茂総主事を招き、第32回午餐会を、神戸ＹＭＣＡ後援会主催のもと開催しました。参加者は30名。

現在119の国と地域で5,800万人が活動する、世界最大の青少年団体であるＹＭＣＡですが、世界の様々な青少年の課題に応えられているのでしょうか？　背景として1992年から続く自殺者30,000人超、さらに20代・30代の死因の第１位が「自殺」という状況が続いています。生きづらく希望を持てない若者が数多くいることも事実です。そのような中、ＹＭＣＡは若者の痛み悲しみに寄り添いながら、力づけ、勇気づけ、育み、チェンジエージェントを育てていくことが大切であり、そのためにはＹＭＣＡが一つになることが求められています。その他にも、平和の問題、人権の問題、環境の問題等、ＹＭＣＡが取り組むべき課題は数多くあります。すべてのことに対して十分な取り組みができないとしても、それらのことを変えていく原動力になっていくことが必要であり、地球市民育成と平和文化の形成に向けた様々な課題を、皆様の支援の中で、皆様と共に行なっていきたい、と語られました。

未来への提言

私は大学二回生の夏から、ＹＭＣＡのリーダーとして、三宮リーダー会のボランティア活動に参加しました。友人に誘われ何気なく始めた活動でしたが、キャンプや毎月の例会、それに至るまでのミーティングを通して、子どもの成長を願い、一人ひとりと本気で向き合うことの素晴らしさを知り、また「ボランティアとは何か」を自分なりに考えた三年間でした。

大学ではよく「ボランティア活動に積極的に参加しなさい」と言われ、「参加すると将来のためになる」という言葉を耳にしました。「私も何かしなければ」と考えていましたが、『ボランティア』はとても積極的なイメージで、当時の私には参加することすら勇気のいる、難しいことに思えました。しかし、ＹＭＣＡに入り「どんな小さなことでも人のために何かするだけで、立派なボランティアになる」、「小さな子どもでも友達のために何かができる」、ということに気づかされました。困っている人に手を差し伸べること、泣いている友達にどうしたのと声を掛けること、いろんな優しさがボランティアにつながります。誰かに言われて何かをするのではなく、自分の意志が大切なのだと――。

リーダー生活を通して、ボランティアの魅力を感じ、多くの仲間と心から尊敬する大人に出会いました。また、キャンプを通して子どもの成長にたくさん出会いました。そして、なかなか自信を持てずにいた自分自身と向き合うことができたように思います。

始めから上手く行くことばかりではありませんでした。ミーティングや下見などたくさんの準備があり、辞めたいと思った時もありました。でもそんな時、ボランティアは始めることは自由だが「自分の意志で始めたからには責任が伴う」という言葉を思い出し、子どもたちと真剣に向き合いました。その為に自分の時間を削って準備をするのは簡単ではありませんでしたが、この言葉のお蔭で、私はリーダー生活に全力を注ぐことができたように思います。

４月からは社会人です。自分を見失わないように。リーダー生活で学び感じたことを無駄にしないように。「いつでも自分の意志を大切に、共に生きていく。」ＹＭＣＡから教わったこのことを実践するために、日々努力したいと考えています。

社会人になってもＹＭＣＡに帰ってくる先輩をよく見かけます。私もボランティアを続けたいと思います。いつまでも未来へと進んでいく、私のような弱い人間も強くしてくれる、そんなＹＭＣＡであって欲しいと願っています。

神戸ＹＭＣＡ三宮リーダー会
神戸親和女子大学４回生
石田詩織

ホテル学科50周年に寄せて④

なぜ、模擬挙式をしたいのか？

神戸ＹＭＣＡ学院専門学校ホテル学科ブライダルコースでは、３月の卒業前に、今まで学んできたことの集大成である“模擬挙式＆披露宴”を行っています。三宮会館１階チャペルで挙式をし、４階旧サイコー亭で披露宴を行っています。初めは、新郎新婦役をホテル学科の卒業生やＹＭＣＡ職員をカップルに仕立てて、式と披露宴を行っていましたが、昨年度からは、新郎新婦役を、何らかの事情で式を挙げていない（又は挙げることができなかった）方を一般募集するようになりました。

学校と学生にとっては模擬の挙式と披露宴でも、応募される方にとっては一生に一回の結婚式です。学生たちが準備を進めていくうちに、学生たちがカップルを選んだ模擬挙式ではなく、カップルに神戸ＹＭＣＡを選んでいただいた本物の式なんだと気がつくようになり、緊張感は一気に高まった一般募集初年度でした。

今年度、新郎新婦役を一般募集する上で、学生たちに考えてもらいました。なぜ、模擬挙式をしたいのか？「学生である今にしかできないことをしたい、ブライダル生チームは卒業したらそれぞれの進路を歩んでいく。先生方にも私たちの成長をみてほしい」などの意見がでました。たくさん出た意見の中で、「親に対する感謝」という言葉がありました。以下、原文のまま掲載します。

“結婚式を挙げることができなかった２人の式を挙げることにより、結婚式の１つの目的である「親に感謝を伝える」ことができる。それを手伝うことにより、私たち自身も親に対する感謝の気持ちを高めることができる。”

さて、親に対する感謝の気持ちはどれくらい高まったでしょうか。式と披露宴の直前や最中は、そんなことを考える余裕は無かったかもしれません。でも、時には思い出して考えてください。なぜ、模擬挙式をしたいと思ったのか。そして、自分は誰のために生きていきたいのか、を。これからを生きるエネルギーにするために。

今年度は、１月30日に行いました。ご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。

I'm a Partner Camp

キャンプ中、突然降り出した雨に「この雨は濡れていいの？」とリーダーに聞く女の子がいました。日本にとって最大の課題であり、関心ごとであるはずの福島の問題は、もはや遠いものになってしまったのでしょうか。毎月街頭に立って募金を呼びかける震災リーダー会や、寄付に駆けずり回ってくれるファンドレイザーが、現実に直面しています。神戸ＹＭＣＡが誇る余島に福島の子どもを招待したい。素晴らしい自然と高貴な伝統が流れるキャンプ。「今、それを一番必要としているのは誰か？」想像する人々は声をあげました。「今、私にできることは何か？」自問する人々は動き出しました。2013年夏、40名の子どもたちを余島に招待するため、200名を超える支援者が声をあげ、第１回目のパートナーキャンプが開催されました。子どもたちは４泊５日、海に森に、リーダーや仲間と、その名の通り泥んこになって遊びました。2014年元旦。福島から嬉しいお便りが届きました。**『ＹＭＣＡのリーダーへ。わたしは福島で元気にやっています！』**…かつてジョージ・ウィリアムスがそうだったように、私たちはキャンプを通して、子どもたちに「未来」を感じて欲しいと願っています。そして同時に「何かしたいと思っていたけど、できなかった。それが、こんなことができるなんて。遠かった福島が。福島の子どもたちが、あんなに元気に…。人生においてこれ以上の幸せは無い―。」そう語ったファンドレイザーのように、人々に喜びを感じて欲しいと願っています。このパートナーキャンプは春と夏、2016年３月まで続けていきたいと思っております。私たちは一人でも多くのパートナーを探しています。皆さんのご協力を心よりお待ちしております。

I'm a Partner（福島の子ども招待キャンプin余島）
2013年７月28日～８月１日 40名招待　４泊５日招待　400万
2014年３月31日～４月４日 40名招待予定
４泊５日169万8,425円 ※2014年２月５日
2014年８月、2015年４月、８月、2016年４月

東日本大震災支援活動
リフレッシュファミリープログラム

神戸ＹＭＣＡ・神戸市社会福祉協議会・コープこうべの共同プログラム「エコファームで収穫体験しませんか♪」を実施しました。

11月30日、コープこうべ「エコファーム」で大根、カブなどの新鮮な野菜の収穫体験を行いました。神戸ＹＭＣＡからは、リーダー２名、ディレクター１名で参加しました。今回は、久しぶりに会う子どもたちもいて、再会を喜ぶとともに成長している姿を見ることができました。農園では子どもたちの元気な声が響くなか、大根、カブを収穫しました。広い農園をバスで移動中に周りの風景をみながら、「トトロがでてきそう！トトロいるかなぁ」とわくわくしている子どもや、「大きなカブ」のお話にでてくるように、うんとこしょ、どっこいしょ、と元気良くカブを抜いている子どももいました。収穫後は、農園の方々に大根煮を振舞っていただきました。「これ、美味しい！」子どもたちも大喜びで食べている姿を見ることができました。施設の芝生広場でも、思いきり走り回り、元気のいい声や笑顔を見ることができました。全力で遊ぶ子どもたちからエネルギーを沢山もらうことができました。最後は保護者の皆さんも加わって、一緒に遊ぶこともでき、楽しい時間を過ごしました。

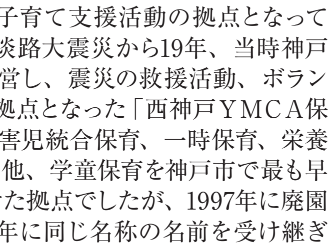
震災から今月11日で３年となります。現地ではまだ復興がなかなか進んでいない部分もあります。関西のほうでは少しずつ記憶から消えてしまってはいないでしょうか？「被災地」として捉えられることの方が多い東北です。しかし、神戸に来られている方や、他の場所で生活されている方にとっては、大切な地元であり、沢山の魅力がある場所です。そのことを忘れないように、これからも活動を続けていきたいと思います。　（リーダー　吉川洋子）

保育園

毎年１月17日に震災を覚え、実施される、広域避難場所までの避難訓練の様子です

西神戸ＹＭＣＡ保育園は、2009年に開園されました。現在82名の園児が通園するだけではなく、毎週水曜日の「０歳児の赤ちゃんサロン」「地域オープンセミナー」の他、一時保育など様々な子育て支援活動の拠点となっています。阪神淡路大震災から19年、当時神戸市長田区で運営し、震災の救援活動、ボランティア活動の拠点となった「西神戸ＹＭＣＡ保育園」は、障害児統合保育、一時保育、栄養士給食指導の他、学童保育を神戸市で最も早くスタートさせた拠点でしたが、1997年に廃園となり、2009年に同じ名称の名前を受け継ぎ開園されたのです。「子どもを愛し、地域を愛す」「子どもの育ちを中心に、保育者、保護者地域が寄り添う保育園」の「SPIRIT」も受け継ぎ、これからも歩んでまいりたいと思います。

幼稚園　「冬の遊び」



１年で一番寒い時期です。大人は室内で「寒い。寒い。」と体を丸めがちですが、子どもたちは元気です。冷たい風や雪や氷ともすぐに仲良しになれる姿に、子どもの溢れるエネルギーを感じます。幼稚園では子どもが駆け回れるような遊びのカリキュラムを計画しています。氷鬼、島鬼、増え鬼、縄跳び、おしくらまんじゅう、影ふみ、凧揚げ…。思えば昔ながらの遊びが多いと気づきます。

昔は、冬でも家の中で閉じこもらないで近所のお兄さん、お姉さんや年下の子どもたちと一緒に、身ひとつで、あるいは身近にあるものを使って自然と戯れながら体を動かし、暖をとっていたのでしょう。幼稚園では、今この時代に、昔ながらのこうした遊びを導入することがとても大切なことと思っています。

自分の体を守ること、安全に留意すること、力加減を知ること、手先や体の機能を知り使いこなすこと…ひとつひとつが、友だちと関わるこうした昔ながらの遊びの中で養われています。

極寒の時期も元気に体を動かしている子どもたちに負けないように私たちも元気に過ごしたいと思います。

感謝・寄付

日本基督教団神戸教会
塩田邦博

【フィリピン台風緊急支援募金】
廣瀬献児、山本常雄、島田恒、坂田昌鴻、中山豊美、ロニーアレキサンダー、松田康之、権藤みか、田治杉子、宗行孝之介、学校法人啓明学院高等学校、いざなぎ学園有志、ＹＭＣＡセミナー2013、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区六甲部各クラブ

ＹＭＣＡ国際協力募金に園児のみなさんと取り組んでくださっている保育園を紹介します。ご協力、感謝いたします。

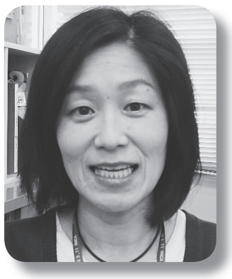
社会福祉法人　イエス団　神視保育園
社会福祉法人　神戸婦人同情会　青谷愛児園
社会福祉法人　聖ミカエル保育園
社会福祉法人　愛児会　あゆみ幼児園
社会福祉法人　頌栄会　頌栄保育園

Staff of the Year 2013

2013年度にひときわ献身的な働きをした講師・職員として、下記の５名の方々が選ばれ、さる1月6日の新年職員礼拝において表彰がありました。

岩本和憲 さん（ＣＳＣ）

組織風土の異なる団体との協働の中で、ＹＭＣＡを表現することを行動で示しています。スタッフ一人ひとりとの関係を大切にし、協働者の立場を尊重しながらも、きちんと主張とお願いも伝え、現場のスムースな運営をサポートしている働きは賞賛に値します。



西馬　薫 さん（カレッジ）

30年を有する神戸ＹＭＣＡ日本語学科の教育の質の向上を目指し、決め細やかな指導を心がけておられます。特に昨年は稀有な出来事が重なりましたが、学生の健康、安全を最優先し、スタッフや他の講師とともに対応をされました。

片山里花 さん（ホームヘルパーの事務所）

自らも介護福祉士、介護支援専門員と順番に公的資格を取得し、介護技術と制度理解の両方をインプットしながら自己研鑽に励んでおり、今やＹＭＣＡ訪問介護事業の要としてなくてはならない存在となっています。

本田陽人 さん（西神戸ブランチ）

学園都市会館の多岐にわたるプログラムを担当することによって、ウエルネスセンターと西神戸ブランチの橋渡し役になり、彼の存在が両部門の風通しが良くなっているだけでなく、お互いの協働が大きく前進しました。

山口侑里 さん（ウエルネスセンター学園都市）

非常勤講師の育成、管理、施設整備などの業務を担当し、責任を十分に果たしてくれた。メンバーと密にコミュニケーションをとることを心がけ、バザーの青成メンバー出店、年末の地域クリスマス会にキッズダンスチームが出演するなどＹＭＣＡ運動への貢献度も高いです。

奏鳴曲（ソナタ）　No.61

総主事　水野雄二

Happy Wedding！

３月になると神戸ＹＭＣＡでも卒園式、卒業式、修了式が行われ、４月には入園式、入学式、開講式などが桜咲く下で挙行されます。毎年繰り返されるこれらの「式」とは何なのでしょうか？　これらのセレモニーは何のために行われるのでしょうか？　ふと頭をよぎりました。

その答えとして、あるところに「人生の区切りに新しい意味を与える儀礼」とありました。人生の節々にある区切りの「儀礼」であることは間違いありませんが、「新しい意味を与える」ということに「式」の価値はありそうです。「新しい意味」とは何でしょう？　今までの生活から次の生活へと移ることがどのように私たちの人生を変えるのか、その問いの答えを探ることかも知れません。

１月下旬に神戸ＹＭＣＡ学院専門学校ホテル学科が主催する「結婚式」がありました。これは訳あって結婚式ができなかったカップルを新聞公募し、選ばれた１組のカップルに結婚式の機会を提供すると共に、ホテル学科の学生にはブライダル・プロデュースの実習の場とすることを目的として開催されています。今年は50歳代の再婚カップルが選ばれました。それぞれの人生の労苦の日々を超えて、改めて新しい家庭を作ろうとするお二人のためにＹＭＣＡの学生たちが結婚式をプロデュースしたのです。素人っぽいぎこちなさの中に、若々しい斬新なアイデアが散りばめられ、何よりも「すばらしい結婚式を！」という学生たちの熱い思いが随所に溢れる式でした。そして、それぞれの子どもたちが親である「新郎新婦」の二人を温かく見守り祝福する姿に深い感動を覚えました。

人生の区切りに「儀礼」としてのセレモニーを行うだけでなく、「新しい意味を与える」ことに価値があるとするならば、この結婚式には新しい愛、新しい家族、新しい夢を確認する大きな意味があったのではないでしょうか。3月4月にＹＭＣＡが迎える一つ一つの「式」も、出席する多くの園児、学生、会員の皆さんにとって人生の区切りに「新しい意味」を与えるものであってほしいと願います。

シリーズ　こくさいのまど㉝

「第5回日中韓ＹＭＣＡピースフォーラム」に参加して

２０１４年1月21日～23日、広島ＹＭＣＡがホストとなり、日中韓合同のピースフォーラムが開催された。日本国内においても、一部の排外主義的な言葉や行動が顕在化するなど、国家間の緊張が高まっている昨今において、２００４年より日中韓３ヶ国のＹＭＣＡが集まり東北アジアの平和について歴史教育の問題に取り組むなどしてきた。今回５回目となるフォーラムでは、初めてユースの参加を実現するという、日中韓ＹＭＣＡ総主事の強い意志を持って開催された。参加者は62名で、中国14名（内ユース５名）、韓国17名（内ユース６名）、日本31名（内ユース15名）で、スタッフから国際のプログラムに参加するのが初めてというリーダーまで、幅広い経験のメンバーが揃った。

今回は、ユースを交えた初めての試みであり、また時間的制約もあるなかで、広島原爆記念公園訪問や語り部の方のお話、広島女学院での講義など、盛りだくさんの内容であった。最終日は、シニアとユースが合同でフォーラムの決議も行った。

今回の成果として、具体的な3つの取り組みが決議された。一つは次回のピースフォーラムを中国・南京で開催し、同時にユースを中心とした平和巡礼の旅を行うこと。二つ目に「平和の鐘」をＹＭＣＡのキャンプ場に贈りあうこと。３つ目に「東北アジアの平和の祈り」の採択を行った。

国が違う、ということだけではなく、世代を超え、また経験や立場を超えて場を共有することができるのは、まさしくＹＭＣＡならではだと感じだ。私たちユースは、先人からもその経験から学ぶべきことは多い。それは、例えば初めて会った人たちとの交流の仕方、ユーモアのあり方など、些細なところから学ぶことが非常に多い。シニアの方の国の違う若い世代に発する、期待を込めた寛容な姿勢には、つねづね感動すら覚える。

最初にスピーチをくださったスティーヴン・リーパーさんの話の中で、「私たちは今、変わらなければならない」という話があった。初めてユースを取り込んだ試みやシニアに混ざって、初めて発言したリーダーの挑戦などは、まさしく今、意志をもって変化を求める行動だろうと感じた。私たちは、今、この瞬間から変化を求めて変わることができるのだ。

（森　恭子／神戸ＹＭＣＡ国際委員・神戸ポートワイズメンズクラブ）

YMCA Information

ウエルネスセンター三宮	☎078(241)7202
ＹＭＣＡホームヘルパーの事務所	☎078(241)7237
ランゲージセンター	☎078(241)7204
専門学校	☎078(241)7203
西宮ＹＭＣＡ	☎0798(35)5987
三田ＹＭＣＡ	☎079(559)0075
余島野外活動センター	☎0879(62)2241
国際・奉仕センター	☎078(241)7204
ウエルネスセンター学園都市	☎078(793)7401
西神戸ＹＭＣＡ	☎078(793)7402
西神南ＹＭＣＡ	☎078(993)1560
須磨ＹＭＣＡ	☎078(734)0183
ＹＭＣＡ保育園	☎078(794)3901
西宮ＹＭＣＡ保育園	☎0798(35)5992
西神戸ＹＭＣＡ保育園	☎078(792)1011
ＹＭＣＡちとせ幼稚園	☎078(732)3542
西神戸ＹＭＣＡ幼稚園	☎078(997)7705
西宮つとがわＹＭＣＡ保育園	☎0798(26)1016

卒業リーダー感謝

今年も学生時代の貴重な時間と力をささげ、ＹＭＣＡ活動の担い手になってくださったボランティアリーダーの皆さんが巣立っていきます。リーダーのご奉仕に心から感謝すると共に、奉仕活動を通して彼らが得たものがこれからの糧になることを願っています。以下は、この春に卒業するリーダーの皆さんです。（順不同）

﨑田 唯	原 明日美	久保 優貴	河野 舞	山田 梨世	喜多 将太郎
宇坪 裕美	小立 はるか	重信 紘平	篠﨑 優李	山中 美月	草川 美樹
志水 野乃花	稲田 帆波	西元 太一	杉本 香淑	堂島 大地	永井 美菜子
石田 詩織	青木 友里	長谷川 敦士	福本 紗希	西尾 篤	林 沙紀
井戸 麻世	稲富 絢乃	松田 健吾	福本 祥子	米谷 篤司	山本 果奈
酢谷 周平	小林 さあゆ	松村 万里	古川 真美	生田 睦美	
衣笠 雅子	柴田 怜奈	山本 恭平	星賀 友明奈	末岡 真奈	
三好 青依	岡田 光平	米澤 直純	湊 紗矢香	明石 奈美	
川端 保貴	川西 大河	香川 仁美	矢吹 舞	芦田 絵里	
平井 剛志	川畑 陽祐	黒田 慧	山田 藍	家田 奈津美	

★★ 個人消息 ★★

【ご結婚おめでとうございます】
2／22　井島裕介さん
竹浪淳子さん
（共に三宮ブランチ）

【ご逝去】
謹んでお悔やみ申し上げます。
1／1　勝部宏人様
（キャンプリーダーOB・維持会員）

1／10　山城みなみ姉（西宮ブランチ）
ご祖父様

映画上映『天に栄える村』

1月18日、三宮会館にてドキュメンタリー映画『天に栄える村』（原村政樹監督2013年製作）が上映されました。福島第一原発から70㎞離れた福島県天栄村は、里山に囲まれた人口6,000人ほどの村です。恵まれた自然環境を大切にされながら農業を営んでこられた村の人たちが、私たち日本に暮らすすべてのものに未来をともに考えようと問いかけてくださいました。私たちのよりよい未来を創るために知ることの大切さを強く感じました。

フィリピン緊急支援募金活動

昨年11月の台風により大きな被害を受けたフィリピン支援に対する街頭募金活動を、12月に行いました。ＹＭＣＡメンバー、ボランティア、ワイズメンズクラブ六甲部の方々にも街頭、そして各ＹＭＣＡでの募金活動に参加していただきました。皆様のご理解とご協力により、748,963円もの募金が集まりました。この募金は日本ＹＭＣＡ同盟を通じて、世界中から寄せられる募金とともに現地ＹＭＣＡへ捧げられます。皆様のご協力に心より感謝申しあげます。

「信州志賀高原アドベンチャー・チャレンジスキーキャンプ」

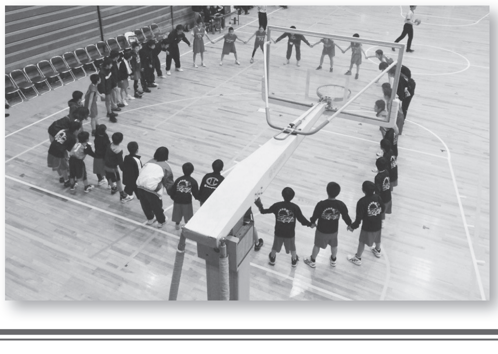
マイナス10℃、猛吹雪。厳しい真冬日が続きましたがスキー最終日には雲一つない青空となりました。山頂2,305ｍからは遠く富士山も望むことができ、まるで彼らの頑張りを称えているかのようでした。それぞれがスキーの技術だけではなく、仲間や大自然を肌で感じ心のお土産に持って帰ることができたキャンプとなりました。次は春のスキーで会いましょう！

水泳大会

２月２日に三宮と学園都市から総勢11名のメンバーと一緒に中日本水泳大会に参加をしてきました。
大会では初めて大会に参加をするメンバーもいましたが、ベストタイムを出して喜んだり、タイムが出ずに落ち込んだり、レース後の団欒を楽しんだりとメンバーにとってとても濃い１日となりました。

ＹＢＢ大会

１月25日～26日に第17回中西日本ＹＭＣＡユースバスケットボール大会が兵庫県立総合体育館にて行われました。メンバー約200名、リーダー約80名、計300名程が集まり、ファイブゴールに基づく熱戦が繰り広げられました。



体操大会

第27回中西日本体操大会が、１月26日大阪土佐堀ＹＭＣＡにて行われ、神戸三宮ＹＭＣＡのメンバーが参加しました。
初めてのメンバーもいましたが、みんな笑顔で良い演技ができました。